

# 漢詩神奈川

第 30 号

神奈川漢詩連盟  
事務局

神奈川県海老名市  
浜田町16-9

TEL-FAX  
046-233-7641

発行人 三村公二  
編集人 高津有二

## 神漢連のこれからの課題

神奈川漢詩連盟会長 三村公二

は、今、大きな曲がり角に來ているような気がしてならない。  
漢詩の本来本元の中国では簡体字で詩作する事が普通になっているし、韻体系も平水韻から現代の日常語を詩語に加えた中華新韻に移行する動きが有ると聞いている。これに対し、日本では平水韻・旧漢字・和語の使用は不可といった規則の下で、漢詩作を今まで通り粛々と継続していくという考え方が主流であるが、これからのこの考え方・姿勢を維持していけるのだろうか。

十月十四日の創立十五周年記念式典と記念行事を無事に終えて、今、一番強く感じているのは、連盟で活躍する人材の大きな移り変わりである。五年前の十周年記念の時は創立時に活躍された先輩方から我々世代への移行の時期であった。そして、十五周年記念の今は、我々世代から次の新しい世代へのちょうど引きつぎの時期となっている。誰かが「老・壮・成」の繋がりですねと言っていたが(実態は「長老・中老・初老」の繋がりののだが)、これは、創立以来十五年間続けてきた初心者入門講座による所が大きく、人材が脈脈と繋がっている事が神漢連の一番の強みである。



三村公二会長

新しい世代が中心になってきた事は今回の記念行事の内容を見ても

とよく分かる。全て、若い人達中心の企画委員会で取り上げた企画・行事であるが、例えば、パソコン・スマホを使った「オンライン吟行会」、「中国人会員の仲間とのオンライン交流会」、井伏鱒二ばりの「漢詩自由訳コンクール」等といったように今まではなかったタイプの新しい行事が、従来からの「自詠自書展」、「記念グッズ頒布」、「市川桃子先生による記念講演会」等に混じって開催された。コロナ禍の影響もあるが、パソコン・スマホの活用が当たり前になってきている世代の企画行事であることは一目瞭然であろう。

漢詩作においても、佩文韻府、詩語集、大漢和辞典等で代表されるこれまでの七つ道具に代わって、ネット上の「搜韻」の活用が常態化してきている。パソコン・スマホの活用という単なるツールの変化だといってしまえばそれまでだが、どうもそれだけではなさそうである。神漢連だけではなく、日本の漢詩界

規格の見直し問題は神漢連だけではできないので、取り敢えずは横に置いておいて、漢詩の基本となる漢文法の勉強会を高芝麻生先生にお願いして積極的に実施した。又、今後はパソコン・スマホの活用は避けて通れないという判断の下に、「スマホで漢詩」をモチーフとする神辞会グループを立ち上げ、活動を強化してきた。神辞会グループの成果は今後順次連盟以外の方々にも紹介していきたいと思っている。

毎年開催している初心者入門講座に、このコロナ禍にもかかわらず、昨年も、今年も、二十人強の応募者が有った事を見ても漢詩は決して絶滅危惧種ではないと確信している。これから漢詩を勉強したいというこれ等の人の為にも、日本の漢詩の在り方について、将来を見据えた全国レベルでの発展的議論を期待したい。

# 十五周年記念行事を振り返って

## 創立十五周年記念行事の総括

事務局長 高津有二

創立十五周年記念式典、記念行事を無事終了することが出来まして、三年越しに準備を進めてきて頂いた企画委員会の皆さん、記念式典当日の会場準備をして頂いた皆さんに厚く御礼を申し上げます。

今回は、コロナ禍という前代未聞の異常な状況の中で、企画委員会も最初の顔合わせの後は、ほとんどZOOMで打ち合わせをするなど、大変なご苦労があったと思います。

今回の記念行事の特徴は、十周年当時には考えられなかった、パソコン・スマホを活用した「オンライン吟行会」、「中国人会員の仲間とのオンライン交流会」、「講演会のYouTUBE作成」などが挙げられます。高齢者の多い神漢連会員の中のごままで浸透していたかは、一抹の心配はありますが、全国各地の県連には、「漢詩神奈川」、HPを通して大々的に、PRしていきたいと考えています。

十五周年は、中間年でありましたが、二十周年の時には、どんなに様変わりした記念行事になるのか、今から楽しみにしています。

## 創立十五周年記念行事を振り返って

十五周年記念行事企画委員会 香取和之

一連の十五周年記念行事は、多くの方々の尽力で盛大に恙無く終えることが出来て今はほっとしているが、暫くすれば忘却の彼方になると思われるので、その要点・今後の課題を以下に記しておく。

### 一・企画委員会の構成と活動

① 企画委員会は、入会年次の比較的新しい人を多く入れて、一昨年十月に発足した。各種活発な提案があり、当初は毎月企画検討を行い、熱心に討議した。これは、十周年時でも同じであり、今後も同様なやり方になると思われる。

### ② 具体的行事の検討に当たっての目標

イ・神漢連会員が創立以来の十五年を振り返って、諸先輩の苦労と良き伝統を再確認し、さらに神漢連の今後の新たな発展と活力になるべきものとする。

ロ・「漢詩を学ぶ、漢詩で遊ぶ」をモットーに、多くの会員がワクワク楽しく参加できる行事の企画と推進を行う。

③ 口項についてはほぼ達成が出来たが、イ項については不十分だったと感じてい

る。イ項達成の為には、十周年時に作成したように、「〇〇周年の歩み」を作成することが第一の方策である。もう一つの方策は、式典当日の岡崎前会長の挨拶のように、創立時を知る人々の挨拶・講演を多く行うことと思われる。

④ 企画検討した事項で実現しなかった主要項目は次の二つである。

イ・オンライン自詠自吟の会：各員の自詠自吟の姿・詩文・吟詠を録画し、全体をYouTubeにアップして楽しむこと。課題は技術的側面など。

ロ・総会のZOOM併用：神奈川近代文学館ホールにEFGがなく、かつ電波状態が良くないため。

### 二・漢詩の伝統と課題

① 伝統への対応：「神奈川清韻第三集」に百四十首の投稿があり、七年ぶりに本会報と同時に発行した。

② 伝統の課題への対応：「漢詩自由訳コンクール」や、「現代の中国漢詩と日本漢詩」についての中国人会員の仲間とのオンライン交流会などを行ったが、直接的に切り込んだ企画ではなかった。十月十四日の記念式典に於ける岡崎前会長挨拶での、「漢詩の世界にもB級グルメがあったもいのではないか」の発言が印象深かった。また本件については、三村会長が本紙一面で論じている。

オンラインと郵送の吟行会同時開催

―多くの会員が参加(十月十二日)―

初回の「神漢連十五周年記念行事企画委員会」で、コロナ禍での吟行会をZOOM会議

形式で、オンラインで開催してはどうかとの提案があった。十カ月以上かけた試行錯誤の結果、総会前の十月十二日午後、オフラインでの郵送投稿組を含め全六十二句が披露され、いずれも神奈川の名勝をテーマに和氣藹々のうちに五組の連句が完成した。加えて、オンラインで講師の優秀句発表前に、参加者全員が各一票を投じ、結果を皆で一覧できることで、自宅で居ながらにして、吟行の楽しさを体現する盛り上がりでもあった。

発句、◎優句、○秀句、●出席者投票人気句、●優句で人気句

「鎌臺今昔 其二」(灰韻) 指導・中島副会長

- 発騷人連袂訪鎌臺 水城まゆみ
游泳乗波宛轉回 福田 忠夫
美男釋尊雙燕廻 山口 幸雄
獨騎鷹揚天下魁 松本 祐輔
半日清遊欲忘回 田中 國夫
鎌臺五山詩偈胚 蔦 清昭
紅葉搖風半覆苔 三村 公二
若僧告知内院開 飯島 敏雄
○千年禪刹洗心催 玉井 幸久
●古寺晚鐘暮色催 牛山 知彦

○兄弟蹉跎感悲哀 榮枯盛衰夢如開

「鎌臺今昔 其二」(先韻) 指導・三村会長

發千秋露坐謁金仙 鎌臺圓覺蕩塵緣

臨濟古刹衣鉢傳 素波溶漾水天連

○摘花童女廻廊前 祇苑清淨佛心傳

○涼滿廟堂弄秋妍 玉庭散策紅葉鮮

○大佛頭上月如弦 巡寺到宮風颯然

鎌府英雄去杳然 源家挽詞向誰傳

「鎌臺今昔 其三」(元韻) 指導・水城副会長

發鶴陵華表晚鴉翻 ○神宮飛薨源氏幡

○神宮飛薨源氏幡 頼朝樓臺堆酒樽

社壇妙舞靜女冤 白旗白梅浴春暄

○古刹深深洗塵煩 古刹行脚滌塵煩

幽興寺樓絕俗喧 庭院泛英繚亂翻

○秋霖動葉舩雙肩 茶坊一碗甘味圓

來年米壽晚節堅

○涼滿廟堂弄秋妍 玉庭散策紅葉鮮

○大佛頭上月如弦 巡寺到宮風颯然

○涼滿廟堂弄秋妍 玉庭散策紅葉鮮

(新井治仁、蔦清昭)

『三国志』の英雄 曹操の悲哀  
―市川桃子先生講演会―

令和三年十月十四日(木)神奈川近代文学館に於いて、明海大学名誉教授の市川桃子先生による『三国志』の英雄 曹操の悲哀という題の講演会が開催された。会場はほぼ百五十名の来場者で、コロナ禍のなか大勢の聴講者で盛会であった。

曹操について歴史書や小説ではなく「漢詩により曹操の心の内に分け入るといふ試み」で有意義で楽しい二時間であった。以下は先生の講義の内容です。

漢末の時代状況

西暦一八九九年霊帝が亡くなるとその後継者、何皇后が生んだ劉弁(十九歳)と霊帝の母董太后の養育された劉協(八歳)の間の争いが長引いた。一時何皇后側が勝利し劉弁(少帝弁)が即位する。何皇后の兄何進は宦官勢力を一掃しようとして反対に殺される。それにつけこんで袁紹軍が宮中に入り宦官を虐殺した。宮中は大混乱に陥り、この混乱の中で劉弁(少帝)と劉協(陳留王)は宦官によって洛陽から連れ去られた。宦官たち



市川桃子先生

は殺され二人は帰還する事が出来た。

このころの状況を詠じたのが「薤露行」です。

一、薤露行 魏 曹操

惟漢二十二世 惟れ漢二十二世

所任誠不良 任ずる所誠に良からず

沐猴而冠帯 沐猴にして冠帯

知少而謀彊 知少にして謀彊し

猶豫不敢斷 猶豫敢て断ぜず

因狩執君王 狩に因りて君王を執らう

白虹為貫日 白虹為に日を貫き

已亦先受殃 已に亦た先づ殃を受く

賊臣持國柄 賊臣国柄を持し

殺主滅宇京 主を殺して宇京を滅す

蕩覆帝基業 蕩覆す帝の基業

宗廟以燔喪 宗廟以て燔喪す

播越西遷移 播越して西に遷移し

號泣而且行 号泣して且つ行く

瞻彼洛城郭 彼の洛城の郭を瞻て

微子為哀傷 微子為に哀傷す

【注】薤露行 薤の細長い葉に置く朝露のようにはかなく消えた者の為の歌で漢代貴族の葬送で歌われた。沐猴 猿の一種。大猿。

白虹貫日 白い虹が太陽を貫く現象。君王(太陽)に危険が及ぶ前兆

微子 微の国の子爵。殷の最後の王である紂王の兄、啓。殷が亡び周の時代になって殷家の祭祀を守った。後世「遺臣」の意味になる。

\*ここで曹操(一五五〜二一〇)が感じたのは「白虹貫日」ということだった。

白虹は誘拐犯を指し、太陽は君主を指す。結局誘拐犯は殺された。

この詩の初めの四句は四百年隆盛を誇ってきた漢の王朝が、次第に衰え、劉弁(少帝)と劉協(陳留王)の後継者争いの事。次の四句は宦官たちによって後継者が洛陽から連れ去られた事。次の四句は賊臣の董卓が実権をにぎり陳留王を皇帝につけ(献帝)、少帝を殺して洛陽を焼いた事。最後の四句は漢の遺臣である曹操が廃墟となった洛陽を見て悲しんだ事を詠じた。この歌は人々に歌われて、全国に漢朝末期の事件が知られた。

それから曹操はどうしたか

初平元年(一九〇年)董卓の横暴な行為を見て反董卓連合が結成される。盟主は袁紹であった。魏の曹操は連合軍に加わったが、連合軍の諸侯は互いに牽制を始め一年で解散する。  
\*その時曹操が思いだしたのは、千年以上前の「盟津の会」でした。

「盟津に会す」とは、殷の紂王が暴政をふるい、これを討つために周の武王が兵を挙げた。

武王が盟津まで来ると、諸侯が武王のもとに馳せ参じ、その数は八〇〇に達した。武王は諸侯を合わせて、前一〇三〇年頃周の王朝を建てることになる。

このころの曹操の思いを詠じたのが「蒿里行」と「酒に対す」です。

二、「蒿里行」 十六句からなる詩ですが紙面

の関係で詩の内容と後半八句を紹介します。初めは、董卓を討って漢の王朝を再興するはずであった。その志を持ったものが連合軍を作っていた。その内利害の違いから争いが起り、かつてに君主や天子を称する者も出てきた。苦しい戦いになり百人の内九十九人が死んだ。一面に人家が無くなり、白骨が散らばっていた。兵や民衆が滅ぼされた悲しみ。

後半八句

淮南帝稱號 淮南には帝の称号  
刻璽於北方 北方には刻璽

鎧甲生蟣蝨 鎧甲蟣蝨生じ

萬姓以死亡 万姓以て死亡す

白骨露於野 白骨野に露れ

千里無雞鳴 千里に雞鳴無し

生民百遺一 生民百に一を遺す

念之斷人腸 之を念えば人の腸を断つ

三、「酒に對す」 曹操は、政略、戰略に富んだ武将だったと言われているが、ここには、曹操の夢、理想の国家の姿が描かれている。

後の六句

囹圄空虚冬節不斷 囹圄空虚にして冬節に断ぜず

人耄耋皆得以壽終 人耄耋 皆得るに寿終わるを以てす

恩徳廣及草木昆虫 恩徳広く草木昆虫に及ぶ

詩の内容は、監獄(囹圄)は空っぽで判決を下す年末になっても裁判(断)をする必要はない。人は八十歳(耄)九十歳(耋)まで長生きしをして、皆寿命を全うする。天子の恵み

(恩徳)は広く草木や昆虫にまで及ぶ。しかし天下の統一も、理想郷も、実現できず、曹操は何時までも戦いを止めることは出来なかった。

天下を統一し理想の世界を作るために

建安十一年(二〇六年)曹操五十一歳の時高幹討伐をした。この時詠んだ詩が「苦寒行」です。この遠征では飢えと寒さに苦しめられ側近をなくし曹操自身も疲弊したと言います。

四、「苦寒行」(中の四句)

樹木何蕭瑟 樹木何ぞ蕭瑟たる

北風聲正悲 北風 声 正に悲し

熊羆對我蹲 熊羆 我に對して蹲り

虎豹夾路啼 虎豹 路を夾みて啼く

五、「龜雖壽」

天下は依然騒乱し、魏の曹操は赤壁の戦いに敗れて天下統一の機会を逃し、魏・呉・蜀の三国がにらみ合う形成となりました。戦いの内に曹操も次第に年老いていきました。それでも天下の争乱を鎮める志は消えませんが、烏垣から凱旋した時、五十三才になっていました。

老驥伏櫪 老驥は櫪に伏すも

志在千里 志は千里にあり

烈士暮年 烈士暮年

壯心不已 壯心已ます

\*この志は、曹操だけではなく、歴代の人々も、また現代の人々もひそかにいだいている思いでしょう。

曹操の死

建安二十五年(二二〇年)曹操は病気のため死去した。曹操の死後、息子の曹丕が献帝から禅譲を受け皇帝(文帝)となり、曹操も太祖・武帝と追号されたが、曹操は死ぬまで漢王朝の断絶を許さなかった。

曹操は武将であると同時に詩人でした。又曹操が主導した「建安文学」は骨のある作風という意味で「建安の骨」と呼ばれ、後世まで長く称えられている。

尚、本講演は神漢連YouTubeチャンネルで観ることが出来ます。

(記 水城まゆみ)



熱心に聞きいる大勢の来場者

### 私の好きな漢詩

#### ー漢詩へのさまざまな思いー

アンケート担当 山口幸雄

漢詩アンケートで上位になった詩を、第一位として投票された方々の中から、五人の方に好きな理由、その詩との関りや思いなどを書いていただきました。集計報告の中にも書きましたが、今回のアンケートの大きな特徴は、人気が集みせず、選ばれた詩が多数で、しかも広い範囲に広がっていたことでした。

それは下記の原稿の中にもあるように、神漢連の会員の中には、詩吟をやったり、書を書いたり、多彩な活動をされている方がたくさんいるためだと思われます。文学的な観点からの「読む漢詩」とどまらず、「詠う漢詩」、「書にする漢詩」として漢詩をとらえることで、漢詩鑑賞の裾野は大きく広がっていきま

す。そしてそのような多様な立場の方々への漢詩に対する思いに耳を傾けることは、私たち自身の漢詩に対する考え方も大きく広げられることでしょう。ホームページからダウンロードできるPDFファイル「わたしの好きな漢詩」には、アンケートに投票された方のご覧になって、会員の皆さんの多様な思いに触れてみてください。

### 「春望」の素晴らしさ

九詩期会 松本祐輔

春望

春望

杜甫

國破山河在 城春草木深  
感時花濺淚 恨別鳥驚心  
烽火連三月 家書抵萬金  
白頭搔更短 渾欲不勝簪

國破れて山河在り 城春にして草木深し  
時に感じては花にも涙を濺ぎ 別れを恨んでは鳥にも心を驚かす  
烽火三月に連なり 家書万金に抵る  
白頭搔けば更に短く 渾べて簪に勝えざらんと欲す

私が、好きな漢詩のアンケートで春望をトップに選んだ理由は、折に触れて詩吟で楽しむ接し、身近に感じてきたためです。特に首聯が素晴らしく、石川忠久先生の漢詩鑑賞事典によれば、「人の世は転変するが、自然の山や川は少しも変わらない。また、草木も春が来れば、ちゃんと葉が茂り花が咲く。そこが悲しいのだ。」と、解説されておられます。

この律詩は、頷聯及び頸聯の対句の詩語一つ一つが非常に巧みに連繋して私の心を揺さぶります。また、松尾芭蕉も「奥の細道」の平泉の条りで首聯を典故とした「国破れて山河在り城春にして草青みたり」と平泉の興亡を懐旧し「時の移るまで涙を落としはべりぬ」と詠じております。

このように春望が人々の胸を打ち心に迫るからでしょうか。アンケートの結果で、一番選ばれたのも納得のいくことです。

### 「白帝城」の思い出

塚田倩子

早發白帝城

早に白帝城を發す

李白

朝辭白帝彩雲間 千里江陵一日還  
兩岸猿聲啼不住 輕舟已過萬重山

朝に辭す白帝彩雲の間 千里の江陵一日に還る 兩岸の猿声啼いて住まらず 輕舟已に過ぐ万重の山

旅が好きである。東洋史が好きである。ずっと観光客を拒んでいた中国が、漸く受け入れを始めた一九八〇年代に、毎年、亡夫と嬉々として各地を訪ねた。その四年目が三峡下りであった。三峡ダム建設を計画中で、いずれ景観が損なわれるだろうと言われていた。重慶から宜昌まで、二〇名ほどの客を乗せて一泊の船旅であった。劉備玄徳の故事を聴きながら白帝城をめぐり、蜀の栈道を見上げ、のどかな旅であった。ガイドは夜、船内で胡弓を奏で、筆を揮った。

後日、李白の詩をじっくり読んだ。私の旅はゆったりとしたものであったが、この詩に描かれる風景は疾風のように素早く過ぎて行く。舟はもつと小さく、水面は間近であったろう。危険も多かつたことだろう。それでも、眺めた景色は李白と同じだったと信じている。

今もあの雄大な景色は保たれているだろうか。様々な漢詩をなぜかすらと暗唱してみせた亡夫の姿と共に、旅を思い出す。(読みは岩波文庫『唐詩選』)

「飲酒其五」と私

住田笛雄

結廬在人境 而無車馬喧  
問君何能爾 心遠地自偏  
采菊東籬下 悠然見南山  
山氣日夕佳 飛鳥相與還  
此中有眞意 欲辨已忘言

陶淵明の「飲酒」二十首の中の第五番目の作である。都城に住んでも心は隠者、正に「大隱」の姿勢である。それと、「飲酒」と言いながら、「酒」は一言も言わない。直接言わずに言い得て妙である。詩心の真骨頂である。酒をこよなく愛する小生としては、この世にこの様な詩がある事が真に嬉しい。

菊をとるのは飾って眺めるためではない。酒に浮かべて薬酒として長生きを願うためである。その長生きの象徴が、古く詩経の時代から「南山」なのだ。この二行は、酒飲みの本音を表して余すところがない。

酒を酌むのは日暮れから、夕陽が美しく鳥も連れ立って帰ってゆく。さあ、ゆっくり静かに楽しもう。

飲酒其の五を詠ず

住田籥軒

東籬菊發戸庭隈  
三兩相連夕鳥來  
山氣正如陶令宅  
忘言佳景暫徘徊

「寒梅」に思う

千代田岳精会 田川行雄

寒梅 庭上の一寒梅  
庭上一寒梅 庭上の一寒梅  
笑侵風雪開 笑つて風雪を侵して開く  
不爭又不力 争わず又力めず  
自占百花魁 自ずから百花の魁を占む

この漢詩「寒梅」を詩吟の時間に初めて接したのは随分前のことになりましたが、新島襄が指導者としていろいろな苦難にめげずに笑って目標達成に立ち向かう姿を思い浮かべて、強い感銘を覚えました。変化の激しいエレクトロニクス業界に身を置き、その変化をチャンスにする事にチャレンジしていた現役時代を思い起こしたものでした。

その後新島襄の生涯やこの漢詩の意味を調べると、もっと深い意味があることがわかり、深く反省すると共に一層この詩が好きになりました。

「別に争って一番咲きを競って努力したのではなく、自然にあらゆる花のさきがけとなったのである。まことに謙虚な姿で、人間もこうありたいものだ」という解釈に触れ、あらためて自身の観察力の甘さを痛感した次第です。今後のあまり長くないであろう人生もこの教訓を生かして過ごしたいものだと思っております。

「九月十三夜陣中作」に上杉謙信を思う

好文会 瀧川智志

九月十三夜陣中作 上杉謙信  
霜滿軍營秋氣清 霜は軍營に満ちて秋氣清し  
數行過雁月三更 數行の過雁月三更  
越山併得能州景 越山併せ得たり能州の景  
遮莫家鄉憶遠征 さもあらばあれ家郷の遠征を憶うを

結句「今宵は、世間の俗事を一切忘れ、ただただ、この素晴らしい明月を心ゆくまで愛でようではないか諸君！」と呼びかけられているようで、ググッと引き寄せられます。

転句「いま首尾よく七尾城を陥れ、越中・越後の山々と、ついに手に入れた能州のこの風景を併せて眺め得ることは、真に男子の本懐である」には、戦国武将の得意の高揚した気持ちがよく察せられます。

七尾城は富山湾の西の海辺にあります。私はこの七尾城のすぐ近くの越中の射水市放生津で育ちました。そして、どういふ因縁か、現在は、上杉謙信の元の名、長尾景虎ゆかりの地、鎌倉市長尾台の隣の横浜市小山台に住んでいます。地縁によって作者と詩が好きになるのもありでしょう。

謙信は、戦場では軍神が憑依するかと畏れられる一方、仏教に深く帰依し、義に厚く、欲の薄い変人で、奇行が多かつたとも伝わりますが、琵琶を趣味とする歌人でもあり、書も上手で、戦国武将中、最も惹かれる人物の一人です。

### 自詠自書展

神奈川県漢詩連盟創立十五周年の記念行事の一つとして、「第五・六回自詠自書展」が十月二十日(水)～二十四日(日)まで県民ホール第三ギャラリーで開催され、一七〇名以上のご高覧を賜り成功裏に終了致しました。今回はコロナ禍で中止となった第五回展の出品作品と合わせ、石川忠久先生、窪寺啓先生の作品を始め、画賛を含めた半切や額、篆刻、大型作品、さらに新企画としての色紙、折り手本、諸橋轍次博士直筆の色紙、中国の鄒國榮様自詠の祝詩など、全七十余点のバラエティ豊かな作品が大会場に整然と並びました。

今回の成功はひとえに出品者皆様のご協力と、幹事一同一丸となって立案から撤去まで各々の役割を果たした団結力の結果であり、感謝の気持ちでいっぱいです。

自詠自書の会は漢詩を広め、書することを楽しむ会です。その両方を参加者皆様が生きたいとしてくださいれば、無上の喜びです。これまで応援し、力をお貸しくくださった皆様ありがとうございます。神漢連の中にさらに自詠自書の輪が広がり、根付いていくことを期待しております。

(上田尤子)



多数の自詠自書の作品

### 漢詩講演会・記念式典の

### YouTube配信

魏の曹操の漢詩を歴史資料としての観点から読み解かれた市川先生の素晴らしいご講演を、どなたにも視聴可能な形で配信中です。先生のご講演資料はパワーポイントのファイルで丁寧にならされており、このファイルを動画作成して講演のご様子の動画と合わせれば高品位の講演記録を作ることが出来そうです。テスト版を作り先生にお見せして、我々素人が動画を作ることのご承諾を事前にいただきました。

とは言え一時間を超える長時間の実況録画は初めての経験で、失敗は許されません。ご講演の様子を二本のiPhoneで別角度から録画、ご講演の進行全体を会場カメラで録画、と三重に収録しました。配信中のYouTubeはこれらを編集したものです。会場カメラの記録から総会、記念式典も切り出して編集しました。

市川先生のご講演のYouTubeと記念式典のYouTubeは神漢連チャンネルからどなたでも視聴可能です。神漢連のホームページにもリンクが張られています。総会は神漢連の内部行事ですので、メールアドレスを登録された方限定で視聴可能なリンクを配信済みです。神漢連とは何者か?がご理解いただけます。神漢連とは何者か?がご理解いただけます。

(蔦 清昭)

### エコバッグとクリアファイル「七言絶句」から「一歩」(下)頒布

神漢連創立十五周年の記念品として制作したグッズ、及びようやく発刊した「七言絶句ここから一歩」(下)は、会報二十九号の五頁と七頁でその内容を詳しく紹介しており、皆様の好評を得て頒布中です。

今までは、今回の記念式典や神漢連運営委員会を通しての対面式の頒布でしたが、いよいよメール・郵便での申込の頒布を開始いたします。申し込まれた方にはグッズ・図書と共に、送料を加えた請求書を同封いたします。奮って申込願います。

- 一. エコバッグ 頒布代金 一個 千円
- 二. クリアファイル 一セット十枚で五百円
- 申込先 〒234-0054 横浜港南区港南台
- 四一五一一五一一〇四 山口幸雄
- Mail: bxc01076@nifty.com
- 三. 「だれでもわかる七言絶句ここから一歩」(下) 佩文齋詠物詩選抄・注釈」
- 頒布代金千五百円
- 申込先 〒247-0063 鎌倉市梶原
- 二二二六一一三二一九 香取和之
- Mail: Katorikazuyuki@gmail.com



# 会員のたより

## 城田先生追悼

窪寺先生から追悼の玉詞を頂きました。

辛丑七月念七日城田六郎君溘焉逝賦此以追悼

窪寺貫道

同學俊髦爲雅盟 同學の俊髦 雅盟と為り

常專研覈巧吟情 常に研覈を専らにして吟情巧みなり

何圖噩耗馳三伏 何ぞ凶らんに噩耗三伏に馳す

詩會空遺第一名 詩會空しく遺す第一名

## 城田先生追悼

好文会 高津有二

城田先生のお嬢様から訃報を聞いた時には言葉を失いました。痛恨の極みというのは、このことを言うのだと思ひ知らされました。

城田先生は、私が初心者入門講座を終えて、好文会を作った当初から今日に至るまで一貫して、ご指導頂いた恩師であります。まがりなりにも漢詩らしきものを作っているのは城田先生のお蔭なくしては出来ない話です。好文会の2時間余りの厳しいご指導のあと、近所の居酒屋での団欒はこの上ない楽しいものでした。ここで、城田先生への御礼の気持ちを込めて拙詩にしました。

悼城田恩師急逝 城田恩師の急逝を悼む

風雅清高詩入神 風雅清高詩神に入る

數多錦繡絕儔倫 數多の錦繡儔倫を絶す

慈顏髣髴名無朽 慈顏髣髴名朽ちる無し

白玉樓中得意人 白玉樓中意を得たる人

城田先生は間違いない、白玉樓に行かれています。私のような凡人が行けるところではないので、その時が来たら、白玉樓の建物の門前まで出向いて、一言、御礼を申し上げます。たいと、今から密かに願っております。

## 城田先生追悼

鑑賞会C 香取和之

城田六郎先生は、清朝康熙帝勅撰の「佩文齋詠物詩選」中の七言絶句をテキストとして、二〇一五年六月に始まった漢詩鑑賞会Cの生みの親であり、また育ての親です。

城田先生は漢詩の習得に確固たる信念と情熱、さらに具体的な方策をお持ちでした。その集大成として一昨年九月の「第三十五回国民文化祭・みやざき2020全国漢詩の祭典」では「酒匂川畔村酒」で栄えある文部科学大臣賞を受賞されました。また、昨年一月には、五年半に及ぶ「佩文齋詠物詩選」の主要部の講義を完了しました。その後出版準備をほぼ終えて、昨年七月に亡くなられたことには、運命的なものさを感じます。私共への長年のご指導に深謝すると共に、心からご冥福をお祈り致します。

## 十五期サークルの結成及び

### 第一回定例会について

世話人 川喜田康

神奈川漢詩連盟主催の第十五回初心者入門講座が神奈川近代文学館にて昨年六月八日から七月二十八日まで全五回にわたり開催され、参加者は三十名余でした。最終日七月二十八日に講座受講者有志による十五期のサークルが立ち上げられました。

サークル活動の概要は定例会を十一月より隔月一回、第一火曜日、会場はその都度選定で開催することになりました。定例会には水城まゆみ先生、高田宗治先生にご出席頂きご指導をお願いすることになりました。発足時のサークル会員は十四名(男八名、女六名)でスタートしました。

第一回の定例会は十一月二日(火曜日)近代文学館会議室で、出席メンバーは九名、各自の漢詩原稿をもとに、両先生のご批評を踏まえ発表しました。発表後サークル名については検討の結果、一五期(いちごき)に因んで逸語会(いちごかい)に決まりました。

会の進行については事前の原稿の取りまとめ、両先生へのお渡しにあたりご担当に負担をおかけしております。また会場の選定に苦勞しております。今後の会の運営につきましましては両先生のご指導のもと会員相互の親交を深め、明るく楽しい漢詩制作の場にしてまいりたいと思ひます。

四十にして惑わず

志詩会 辻 寛子

十四期「志詩会」のサークル活動は昨年十二月に五回目を迎えました。あわただしく過ぎる日常の中で漢詩を作るたびに季節を感じる事が出来、感覚も以前より敏感になってきたように感じます。

私は詩吟をたしなんでいます、詩吟は主に漢詩の読み下し文に節調を付けて吟じます。好きな漢詩は吟じていて気持ちがいいのですが、自作の漢詩も「吟じたとき」のことを考えて読み下しの美しさに重きが行きがちです。吟題はありふれた日常(大好きなお酒、こどもたち、庭の四季など)ですが、私の感覚をそのまま受け手に感じてもらえるため、どのような表現をすればよいか、七言絶句のたかだか二十八文字に深い奥行きを出すにはまだまだ学浅く、時間がかかりそうです。自分で挑戦すればするほど、現代に残された多くの漢詩のすばらしさに目を奪われます。世界は広く、歴史はなんて奥深いのでしょうか。

九月で四十歳になり、大好きな劉禹錫の「秋思」の詩の一部を拝借し、抱負を漢詩にしたためて十月の例会に挑みました。「行人惑わず前途浩たり 白鷺飛揚碧霄に到る」。「人生死ぬまで生きる」と祖父はよく言っていました、死ぬその時までずっと学び続けるものがあることは喜びだと本当に思います。私の人生もこれから！惑わず！突き進みます！

禅僧の漢詩に触発されて

壬支会 高橋光代

嘗て夏目漱石が参禅した円覚寺に釈宗演という高僧がおられました。親交のあった山岡鉄舟の勧めでセイロンへ三年間の修行に行き、『西遊日記』を書かれました。本文は漢文で書かれていて、漢詩も作られています。

高校時代、多くの中国の漢詩を学び暗誦したこともすっかり忘れ去っていた時に、『西遊日記』に書かれていた漢詩により記憶が甦りました。漢詩の世界の広さ、意味の深さに心を打たれ、もっと勉強してみたいと思い、漢詩の会に入った次第です。

釈宗演のことを知ってもらう目的で、現在の人たちに向けて『西遊日記』の現代語訳を大学の先生が書かれました。しかし、それを読んで、明治生まれの伯父が大変落胆した姿が印象に残っています。伯父は以前『釈宗演伝』を書きましたので、常日頃漢文、漢詩に接している人と、それが非日常的な人とのギャップを感じたのでしょうか。

中国の二千年前の漢詩が今でも鑑賞され、今の日本の文化にも大きな影響を及ぼしており、東洋の端の国に引き継がれていることは奇跡だと思います。この大切な文化を若い人たちが学んで宝物としていただければ、まだまだ日本の漢詩文化は存続できると一会員として切に願っています。

私と漢詩

\*中国語に翻訳された日本詩文

三水七步会 柴本信子

卷第一

祇園精舍鐘声响 訴説世事本无常  
沙羅雙樹花失色 盛者必衰若滄桑  
驕奢主人不長久 好似春夜夢一場  
強梁霸道終絕滅 恰如風前塵土揚

卷第十一

新中納言知盛説「不愿看到的事終于来到了、讓我等自尽吧中」(中略)他們把、紅旗紅印拋在海面上、那情就象龍田川の紅葉陽陽被山風吹落、紛紛滿地、拍打岸邊的白波也變成了朝紅色。失去主人的空船任凭潮涌風吹、漫无目的地漂白、實在可非。

ご存じ、日本文学史上比類無い、「平家物語」(一九八四年・人民文学出版社)です。実は「この本」は一時移住していた門司港、大連友好図書館の廃棄図書！洋館三階の飾り窓から海峡を往来する船を眺めたり、読書したり。郭沫若や郁達夫などの作品も閲覧できました。

前回会報、陳興さんのご意見に触発されましたので「山頭火の世界」(李芒訳・春陽堂書店)の自由律俳句をご紹介します。うしろすがたのしぐれてゆくか

「螢螢背影 緩歩暮秋冷雨中」

## 私と漢詩

詩林会 白石信隆

十周年行事が終わった年の四月に、神漢連に入会した。目的はひとつ、玉井先生の漢詩鑑賞会聴講だった。事務局からは入会費と併せて初心者講座費の払込票が送られてきた。それまで漫然とではあるが漢詩は少し読んでいた。しかし、韻や平仄と縁のない普通の日本人に漢詩を作るはずはないと決めこんでいた。それ故、半信半疑で受講を決めた。

「詩語集」の存在を知らなかった私には、正に目からうろこであった。今から考えれば、「だれ漢」を初回の講義時に初めて手にした事自体が、不埒な心構えであったが、無知な故でもあった。素養に欠ける身にとって、それを少なからず補ってくれる詩語集はパソコンで言えば、外付けのメモリーである。平仄と押韻その他のルールを教わり、外付けメモリーの恩恵を受けながら、パズルを解くに似た感慨を以って楽しく作詩が始まった。

あれから四年、詩作は一向に進歩しない。身につけていない外付けメモリーを主体に無い知恵を絞る虚しさを今は味わっている。要は勉強して詩心と内蔵メモリーを豊かにしろという事だろう。だが、努力はするとしても、内蔵メモリーの経年劣化の進行も覆えない事実である。至らざるところは「外付け」に頼らざるを得ない。初心に戻り有効かつ効率的に活用する工夫をするよりなさそうである。

## 漢詩と私

十期会 高田宗治

私が漢詩に出会ったのは五年前。通称「だれ漢」と呼ばれる一冊の詩語辞典が漢詩の指南書となった。この辞書は全くの素人にしては分り易く、二字と二字+三字を選び、起承転結の順に四句作れば完成と安易に考えたものだが、一句さえろくに作れず大変苦労した。よくぞ今日まで続いたものだと思う。

それには二つの理由があった。第一は漢詩の魅力であり、創作の楽しさにあった。第二は曾て苦い経験をした脳疾患によるボケの防止にあった。振り返れば二十年前、医師から画像診断を見せられ、「この斑点がボケのサイン」と注意勧告を受けた記憶がある。この症状は遺伝的なもので諦めてはいたが、近年の医学の進歩のおかげで努力次第によっては脳の老化は何とかなるのではないかと微かな希望が見えてきた。

脳内には約一千億個の神経細胞があると考えられるが、中でもニューロン(情報の貯蔵器官)とシナプス(情報の伝達器官)の活性化がボケ防止の最大の決め手とされる。趣味の漢詩を続けながら脳内神経の活性化ができるならば、これ以上有り難いことはない。幸いにも神漢連の皆さんは多士済々の集団であり、日々心地よい刺激をいただいている。これからも世の中の出来事に関心を持ちながら漢詩を楽しむみたいと思っている。

## 漢文法基礎講座に参加して

志詩会 東島正樹

正確な漢詩を作るには、語順等基礎となる漢文法の知識が前提となると思い、令和二年十月からと、三年六月から、各五回の「漢文法基礎講座」に参加した。約三十名が参加。講師は横浜国立大学准教授の高芝麻子先生。

まずは漢文を書き下し文に直して、日本語として読めるようにするために、先人がいろいろと工夫した知恵が漢文法であること、具体的には返り点、受身、使役、仮定、否定、比較、疑問・反語、再読文字、違い(おもっし思、想、念、懐。いっ言、曰。ある有、在、存)などを実際に漢詩・漢文を用いて、分かりやすくお話しいただいた。

基礎文法を有名な漢詩を使った復文問題等で説明されるほか、「休憩」で、北宋・梅堯臣「祭猫」、中唐・韋応物「逢揚開府」や中唐・白居易の娘を想う「金鑿子碎日」などを解説される時は、高芝先生の詩人と漢詩・漢文への情熱を感じる講座でもあった。

最後に、先生のご了解を得て、簡単な問題をひとつ。復文をして空欄を埋め、返り点を付けてください。

「客中行」

盛唐・李白

蘭陵美酒鬱金香

蘭陵の美酒 鬱金の香

玉碗盛来琥珀光

玉碗 盛り来る 琥珀の光

但だ主人をして能く客を酔はしめば  
知らず何れの処か是れ故郷

# 漢詩と私

水城まゆみ

## ○ 漢詩との出会い

私と漢詩との出会いは、平成六年頃になります。当時主人の転勤で水戸に住んでいて県立図書館の古文書解説講座の会に入会していました。そこに石川忠久先生の教室で漢詩の勉強をされていた、村内鷗山先生も来られていて、古文書の解説には漢文が読めなくてはいけないから教えて下さるといので、仲間の方と、勉強に伺いました。そこで始めたのが古文真宝選新解の輪読です。それが終わると漢詩も作ってみてはということ、漢詩の手ほどきを受けたのが漢詩を勉強するきっかけです。

## ○ 古典の輪読

漢文の素読では、「詩経」「楚辞」「論語」「世説新語」の白文の輪読をしました。漢詩の方は、「聯珠詩格」や「三体詩」などを勉強しました。

## ○ 横浜朝日カルチャー漢詩教室に入会

村内先生に紹介されて二松詩文会に入会し、詩の会で前中山会長にお会いしましたが、その一年後会長が所属する、窪寺先生の

漢詩教室を受講するようになりました。平成十一年の八月だと記憶しています。中山前会長には「和漢名詩類評釈」簡野道明著や「初級詩偈法」服部承風著などの本を勧められ多いに役に立っています。又、石川忠久先生のラジオ講座のテキストや100選シリーズ、鑑賞事典などは、何回も読み返しています。

横浜の教室では窪寺先生の厳しくも懇切なご批正を頂き、作詩の向上に資していつも感謝している次第です。

神奈川漢詩連盟も十周年を迎えるころからパソコン検索による詩の勉強グループの辞会が発足しました。奇しくもこのメンバーに加えて頂き、日々研鑽されるメンバーの活躍を目のあたりにすることが出来、漢詩の検索も容易になりました。又国会図書館デジタルアーカイブで昔の作詩法のテキストや、漢詩人の評釈を見ることが出来ます。ちなみに、パソコンの入力検索で「詩韻合璧・国会図書館デジタル」と入力して検索ボタンを押すと一発でその本を閲覧できます。この本は昔は神田の中国書専門店である内山書店くらいしか置いてありませんでした。村内先生に紹介されて求めた希覯本です。又、薦さんが国釈漢文大系の主な詩人の詩を詩題や詩語を探しやすく検索できるシステムを開発され、漢詩の解釈に役立っています。

神奈川漢詩連盟のホームページから「搜韻」という便利なサイトにも入って行くことが出来、熟語の検索、意味調べも、容易にで

きます。皆様も一度神漢連のホームページから色々検索されてください。



## ○ 忘れえぬ人との出会い

漢詩の勉強を続けてよかったと思うのは、一緒に勉強する素晴らしい方たちとの出会いが沢山あり、後半の人生に潤いをもたらして頂いたことです。又地方の方とも交流が出来、人生の宝となっています。

## ○ 新人の方へアドバイス

何か解からないことや疑問の事があれば身近にいる先輩に質問やアドバイスを受けるようにするとよいと思います。きっと親切に教えて頂けると思います。

多くの先輩の皆様の影響を受け、後輩の皆様にも先輩の教えを受け継いで行くよう努力したいと思っています。又、今後も新人の気持ちで日々精進してゆく所存です。

神漢連会員「全国漢詩大会」で大活躍

全日本漢詩大会 石川大会



石川全日本漢詩連盟会長  
挨拶



全日本漢詩連盟会長賞

奈良公園

奈良公園

石川俊之

高天清朗 古都の秋

霜葉飄風舞寺樓 霜葉風に飄りて寺樓に舞う

寂寞四邊林囿路 寂寞たる四辺林囿の路

哀聲遠聽鹿呦呦 哀声遠く聴く鹿呦々

石川大会受賞を受けて

この度は、過分なる賞をいただきました。これも偏に、漢詩連盟の先生方のご指導あつてのこと感謝いたしております。

さて私は漢詩を学び始めて三年目になります。一月に二首詩作するように努めております。

今回の奈良公園は子供の頃数回訪れたことを思い出し、奈良独特の雅さと、鹿の戯れる丘陵との成り合いの妙に心を魅かれたその思いを詠みました。謂わば雄大なる寺院と山林との共合、特に紅葉の散り始める季節には一段とその明媚な景色を楽しむことができま

す。そこで、東大寺の鴟尾に散葉が風に舞つて降り注いでいるような景色をイメージし表現してみました。  
まだ漢詩の世界に踏み込んだばかりです。今後この世界楽しみたいと思います。

通常のPCで対応できない旧漢字は常用漢字を用いている。書き下し文の旧かな、旧字等は大会作品集通りとする。

秀作

雨後庭園

雨後庭園

高橋純子

日午庭園宿雨收

日午の庭園 宿雨收り

殘花落盡古池頭

残花落ち尽す古池の頭

露垂籬畔無人過

露垂る籬畔に人の過ぐる無く

唯見鳧雛逐母游

唯だ見る鳧雛の母を逐いて遊ぶを

入選

禁城春雪

禁城春雪

大石加代子

御溝飛雪帶春風

御溝の飛雪 春風を帯び

瞬息落波銀白空

瞬息 波に落ちて 銀白空し

苑樹靚妝唯一刻

苑樹の靚妝 唯だ一刻

黃鶯他日語玲瓏

黄鶯他日 語は玲瓏

入選

熱海梅園

熱海梅園

横溝喜久男

林泉喧燠淨無塵

林泉 喧燠 淨く塵無く

極目花魁麗色新

極目 花魁 麗色新たなり

萬朶芳菲鶯語巧

万朶の芳菲 鶯語巧みに

詩朋悅樂滿園春

詩朋悦び楽しむ満園の春

第十三回諸橋轍次博士記念漢詩大会

優秀賞

大谷明史

松林小徑

松林の小徑

空林緩歩午風輕

空林緩歩すれば午風輕し

幽翠山中絶鳥聲

幽翠の山中鳥声絶ゆ

偶聽近邊松子落

偶たま聴く近辺に松子の落つるを

梢頭瞻仰白雲行

梢頭仰ぎ瞻る白雲の行くを

秀作

大石加代子

花枝圓月

花枝円月

春宵燈下暗香流

春宵灯火暗香流る

月照庭前花影幽

月は庭前を照らして花影幽なり

病臥閨中慰衰老

閨中に病臥して衰老を慰む

横斜一朶紙窗浮

横斜一朶紙窓に浮かぶ

佳作

岡田泰男

觀螢

螢を観る

流行描篆雅無雙

流行して篆を描き雅無双なり

闇闇昏昏不聽蛩

闇闇昏昏蛩を聴かず

點滅映眸成炯眼

点滅眸に映すれば炯眼と成る

叟崇車胤說螢窗

おきな車胤を崇めて螢窓を説く

佳作

高田宗治

東日本大震災十周年 東日本大震災十周年

避難十年悲未消

難を避くること十年悲しみ未だ消えず

病魔更襲意萎凋

病魔更に襲ひて意萎凋す

復興雖抄歸還少

復興抄むと雖も帰還少なし

何日安寧翹望遙

何れの日にか安寧なる翹望遙かなり

佳作

宇野次郎

自慶八秩

自ら八秩を慶ぶ

八秩年頭處處新

八秩年頭処新なり

書窗梅發草堂春

書窓梅発きて草堂春なり

開樽獨酌香風裏

樽を開きて独り酌む香風の裏

懶祭尋詩老散人

懶祭詩を尋ぬ老散人

佳作

侯野長生

義滿公手植陸舟松

義滿公手植の陸舟の松

北山淨境印閑蹤

北山の淨境閑蹤を印す

翠蓋龍松詩趣濃

翠蓋の竜松詩趣濃やかなり

金閣池庭苔石上

金閣の池庭苔石の上

含烟暮景洗塵胸

煙を含む暮景塵胸を洗ふ



奨励賞

牛山知彦

偶感

偶感

杖鄉致仕此身閑

杖郷仕を致して此の身閑なり

車馬衣冠都棄捐

車馬衣冠都て棄捐す

翰墨朗吟耽讀好

翰墨朗吟耽読好し

従心所欲樂殘年

心の欲する所に従ひて残年を楽しむ

第六回漱石記念漢詩大会・熊本

入選

高橋純子

梅雨

梅雨

旬日冥濛水墨天

旬日冥濛水墨の天

鳴蛙閣閣雨綿綿

鳴蛙閣閣雨綿綿

午餘掩卷開窗牖

午余巻を掩いて窓牖を開けば

含露石榴丹欲然

露を含んで石榴丹然えんと欲す

入選

柴本信子

江都晚景

江都晚景

春雪盈城似畫圖

春雪城に盈ち画図に似て

墨東高塔晚晴孤

墨東の高塔晚晴に孤なり

回頭富嶽皚皚聳

頭を回らせば富岳皚皚と聳え

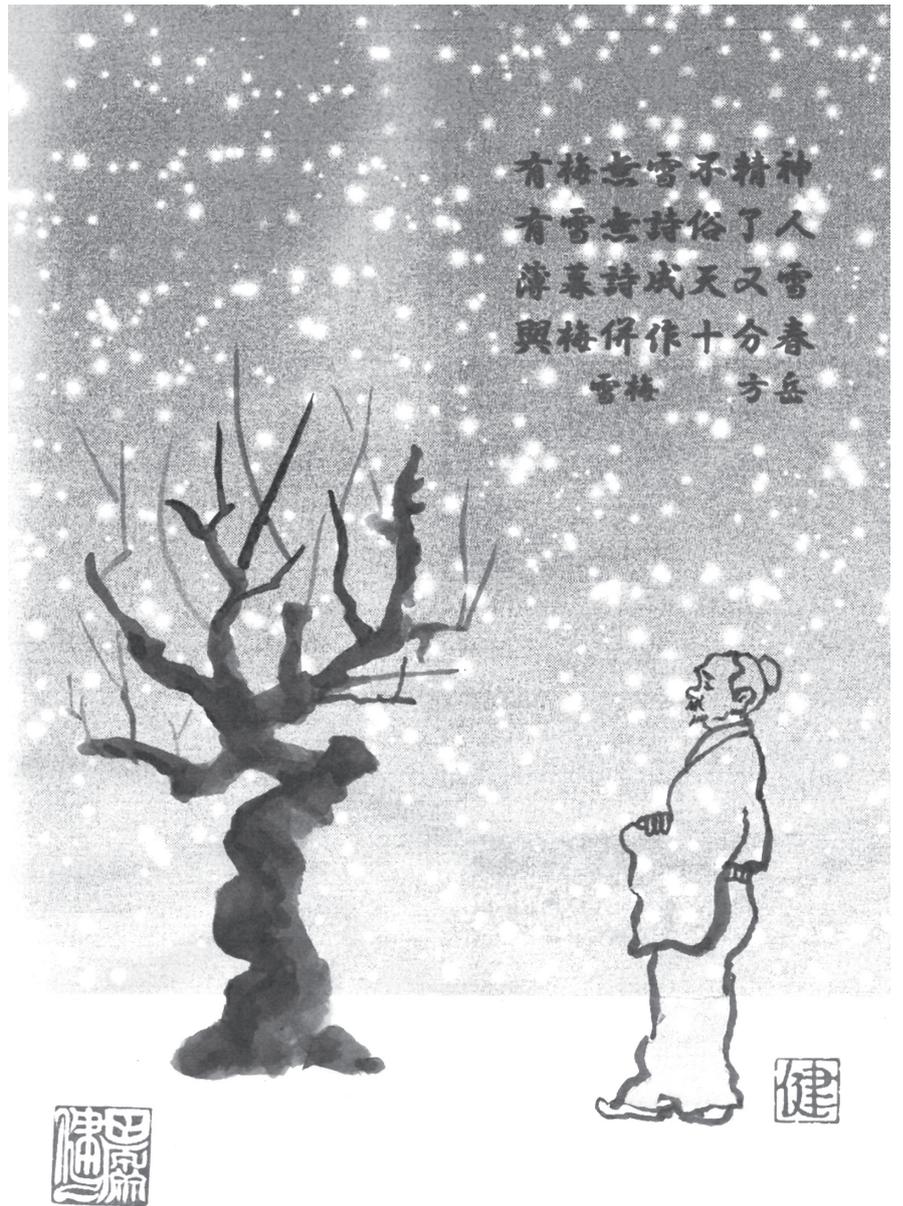
斜雁翩翩度帝都

斜雁翩翩として帝都を渡る

訃報

■ 神奈川県漢詩連盟の会員 堀端保聖氏は  
 令和三年七月十七日に逝去されました。  
 (享年六十一歳)  
 ここに謹んで哀悼の意を表し、  
 ご冥福をお祈り申し上げます。

■ 神奈川県漢詩連盟の会員 伊藤三千男氏は  
 令和三年十月九日に逝去されました。  
 (享年八十五歳)  
 ここに謹んで哀悼の意を表し、  
 ご冥福をお祈り申し上げます。



平成27年2月にホームページ巻頭を飾った故田原健一氏の作品

令和四年の全国漢詩大会の予定

奮って応募しよう！  
 漢詩応募規定・用紙は、各大会のホームページからも入手できます。

● 令和四年度全日本漢詩連盟二十周年記念大会

令和五年三月十八日(予定)表彰式

詩題 「都・京に関するもの」、又は自由題

応募期間 八月一日～十月三十一日

● 令和三年度全日本漢詩連盟「扶桑風韻」漢詩大会

詩題 「舊跡、古跡」

応募完了

応募資格は全日本漢詩連盟の会員

● 第二十五回全国ふるさと漢詩コンテスト (多久市主催)

詩題と応募期間は三月頃決定予定

● 第七回漱石記念漢詩大会

大会開催なし 熊本市自由題

応募期間 四月一日～六月三十日

● 第十四回諸橋轍次博士記念漢詩大会

三条市

応募期間と大会日程は三月頃決定予定

自由題 (例年)

# 神奈川県漢詩連盟 令和四年の行事予定

## カレンダーに予定を記入しましょう

### ●初心者入門講座

漢詩の鑑賞と実作(全五回の講義と実習、第十六期生)  
漢詩に関心のあるお友達に声をかけ、推薦して下さい。

期 日 ①五月十日(火) ②五月十七日(火) ③五月二十五日(水)

④六月七日(火) ⑤六月十七日(金)

時 間 午後一時三〇分～四時三〇分

講 師 三村公二会長他 連盟役員

場 所 神奈川近代文学館

問合せ・受講申込(連盟事務局)

〒221-0001 横浜市神奈川区西寺尾一―六―四

新井治仁 TEL/FAX 045-432-5438 Mail: haruhitoarai@hotmail.co.jp

### ●総会・講演会・懇親会

期 日 五月二十日(金)

時 間 午後一時～四時三〇分(総会・講演会) / 五時～六時三〇分(懇親会)

場 所 神奈川近代文学館(総会・講演会) / KKRポートヒル横浜(懇親会)

総会議題 令和三年度事業報告、令和四年度活動計画、他

講演会 市川桃子先生 演題未定

参加申込 総会は申込不要。懇親会出席の方は、四月初旬発送予定の開催案内

同封の振込用紙で振込み願います。

### ●研修会

四月十三日(水)及び二十一日(木)に、神奈川近代文学館で開催予定。  
詳細は本会報に同封の応募要領を参照下さい。応募締切は三月十五日。

### ●吟行会

オンライン吟行会を三月二十八日(月)に開催予定。開催日が近づいた  
頃に、メールアドレス保有者全員に参加可否の問合せをします。

## 編集後記

本号八頁にあるように、企画委員のご尽力で、創立十五周年記念式典や記念講演会に当日出掛けていなくても、神漢連YouTubeチャンネル・神漢連ホームページから当日の様子を観ることが出来るようになったので、当日不参加だった会員各位におかれては、是非ご視聴下さい。当日の雰囲気テレビ中継を観るようにわかると幸いです。

一方どこにも説明がありませんが、「中国人会員の仲間とのオンライン交流会」の動画も同様に掲載されています。

中国では繁体字ではなく簡体字で漢詩を作る理由について、中国側参加者が「簡体字の教育しか受けていないから」とあっさり言っているのが印象に残る。

片や、旧漢字を使うといい詩が出来る訳ではないのに、ルールがあるがために漢詩初学者がどれだけ苦労していることか。これでは若者が漢詩に寄り付かないのは仕方ない。また、神漢連が推進するパソコン・スマホを使った漢詩作に必要なソフト開発・運用がどれだけ複雑化していることか。

企画委員長からは「直接的に切り込んだ企画ではなかった」との評価しか得られていないものですが、巻頭の会長コメントの背景を知る一助になるかと思うので、ご興味のある方は視聴してみてください。(牛山知彦)